

令和5年度 第4回 神久呂小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月2日（金） 14時00分から15時45分まで
- 2 開催場所 神久呂小学校 会議室
- 3 出席委員 谷野 協司、中村 典子、和久田ゆかり、佐野 晃希
- 4 欠席委員 和久田 明弘、谷井 文明、尾高 理恵
- 5 学 校 山田 英明（校長）、高倉 健二（教頭）、辻村 真一（教務）、  
春田 元彦（CS担当）、山本 一未（CS担当）
- 6 教育委員会 欠席
- 7 傍聴者 1人
- 8 会議録作成者 春田 元彦（CS担当）

9 議長の選出

和久田議員の立候補により、全員意義なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1）授業参観を終えて（子供たちの様子）
- （2）学校評価の分析
- （3）来年度の学校経営について（基本方針の説明）
- （4）学校運営協議会の自己評価について

11 会議記録

司会の佐野委員から、委員総数7名のうち4名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

○ 会長挨拶

給食室等新校舎を見せていただいた。素晴らしい施設で、子供たちも楽しみにしているのではないかと。校舎は天竜杉を使用、温かい雰囲気がありいい環境。

里山育成会の活動（新聞に掲載、新聞記者賞の入賞）卒業生（中3佐藤さん）が、小学生の時行った竹についての学習を生かし、放置竹林の問題を取り上げる。子供たちにも、地域の学習をきっかけにテーマを作り、自分なりの発表などにつなげてほしい。自分たちの取り組みも、子供たちの成長に伴って社会に貢献していくことを望んでいる。

○ 校長挨拶

新校舎にも慣れてきている。仮設校舎への給食運搬が大変である。  
発熱者、各学年にいる。休日挟んでどうなるか、心配している。  
令和7年度2学期には運動場も整ってくる予定。

(1) 授業参観を終えて（子供たちの様子）

- ・ たけのこ学級は、給食室を見学していた。先生と和気あいあいの雰囲気、一人一人に合わせた声掛けをしていた。他学年も落ち着いた雰囲気で、自然な態度で学習に臨んでいた。（中村委員）
- ・ どの学級も落ち着いた雰囲気、先生との関係もよさそうである。近くに来て縄跳びを見せてくれた子がいた。かぜ、インフルエンザなど蔓延の兆しがあるとのことだったので、うがい手洗いなど、配慮をお願いしたい。（谷野会長）
- ・ 教室全体が明るい感じだったが、狭いイメージがあった。（佐野委員）
- ・ 北校舎の教室よりは広い。5、6年生の机は従来より広めの机を取り入れている。（教頭）
- ・ 全体的に明るく、木のおいもし、毎日元気に登校できそうな雰囲気がある。暮らしやすくなった。1年生は4月の頃から比べ、とても落ち着いて学習していて成長を感じた。6年生の卒業製作、一生懸命取り組んでいた。給食室もすばらしくて楽しみ。しっかり食べることなど期待できそうである。（和久田委員）

(2) 学校評価の分析（教務主任）

- ・ 保護者と児童の評価数値の差が大きいものが課題ととらえている。
  - ・ 保護者や地域に周知していく環境を整えていきたい。
  - ・ 神久呂中校区は自己有用感を育てることが重要と押さえている。
  - ・ 自己有用感（自己肯定感との違い）・・・他人からも認めてもらえるようにしたい。
  - ・ 落ち着いた活動の中で、子供たちは育ちつつある。
  - ・ 結果をきちんと周知していきたい。
  - ・ 駐車場の件は、難しさや厳しさがある。
- 
- ・ 保護者側と教員との意識の差が課題。（中村委員）
  - ・ 子供たちはとても楽しく生活しているようだが、学年によりどうか。（中村委員）
  - ・ 自己肯定感と自己有用感の話があったが、目標に対して努力をして、学習の中で肯定をしてほしい。（会長）
  - ・ 日常の言葉掛けが大切、職員の共通理解で、子供との仲を深めてほしい。（会長）
  - ・ 会釈や挨拶、朝すれ違うとき・・・相手から挨拶することが少ないように感じる。でもできているような評価。自分から言える環境作りを。（佐野会長）
  - ・ SCとの相談体制について  
事前に希望調べを出させてもらっている。時間はほぼ満杯。日頃の様子などは見てもらっている。通級の担当に話を聞く機会をもつことも多い。（辻村）  
心理士の免許保持者2名が強み、また養護教諭が子供に話を聞き、そこからつながることもある。（校長）

- ・挨拶運動は親とのギャップがあるかもしれない。目を見て言っても知らん顔、気付かぬ子も。元気に言えるのは小さな子が多い。挨拶はなぜするのか、根本的なこと（意味など）が分かっていないのではないか。（和久田委員）
- ・自分から先がいいのに、大人が先に挨拶をする姿勢を見せないとどうなのか。幼稚園時代、教員が子供の方から挨拶をするのを待っていることがあった。（中村委員）
- ・自らするのは当たり前。自ら発することができればいいが。コミュニケーションが苦手な子のことも踏まえての話ではある。（和久田委員）

（3）来年度の学校経営について（基本方針の説明）（山田校長）

- ・「すべての子供たちの笑顔のために」（教育長の言葉）  
いじめの積極的な認知、組織的対応、未然防止。  
自己肯定感を高めること、自己有用感を実感させること。  
自己理解、児童理解も大切にしている。
- ・教育目標「気づき、考え、行動する」  
学校経営の重点・・・キャリアの視点での学び舎プロジェクトの実施  
保護者・地域とともに学校を育てる基盤作り  
教職員の「働きがい改革」の推進
- ・学期ごとの山を作り、保護者・地域に働きかけ  
振り返りシートへの記入、ボランティア活動など
- ・働きがい改革がいい。若い先生方、ベテランの先生方へそれぞれへのハードルを課し、乗り越えた時の自覚をもてれば・・・子供と同じように、信頼されたり励まされたりするといいいのではないか。（会長）
- ・あやとり支援については教える役割だけでなく「すごいね」などの声掛けや応援の立場で来てもらうことも全然いいのではないか。花植えなどでもほめポイントの共通理解があるといい。協力し合っていきたいので発信をお願いしたい。（和久田委員）

※ 挙手多数により、承認された。

（4）学校運営協議会の自己評価について（会長）

- 評価項目1 学校運営の基本方針について熟議することができたか。  
→熟議することができた。
- 評価項目2 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。  
→熟議することができた。
- 評価項目3 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。  
→十分発信することができた。
- 評価項目4 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）  
→創立150周年の節目が過ぎ、新しくスタートする意気込みで、特色ある学校づくりを推進してほしい。

評価項目4について

- ・ハード、ソフト面の環境作りは正直なかなか大変。保護者向けのアンケートをとることを考えたい。(教頭)
- ・ハード、ソフト面の環境作りの文面を削除。保護者アンケートをとる方向で。

※ 挙手多数により、承認された。

## 12 その他報告事項

### ○ 学習支援ボランティアについて

今年度は学習支援12件、延べ約250名が参加してくださった。

子供たちは安心感、達成感を得られているようであった。

今後、先生方とのコミュニケーションを一層取りながら、支援をしていきたい。

来校する機会のない方は学校に関わり合うことに抵抗がある。

呼称をつけることを、アンケートに入れてほしい。ボランティアのまとまり感をもちたい。

発信に力を入れ、広報していきたい。

### ○ 夢育やらまいか事業（CS加算分）報告書について

体験活動の充実と愛校心を育むために取り組んだ。

### ○ 来年度の第1回運営協議会の開催について

4月22日（月）を予定。

以上